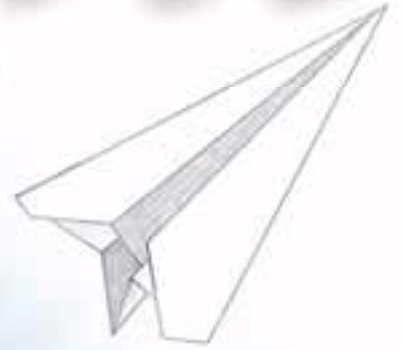


人をつくる 地域をつくる 未来をつくる

上越市総合教育プラン

平成19～28年度 (概要版)



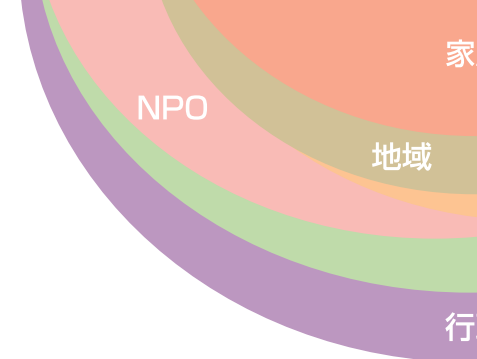
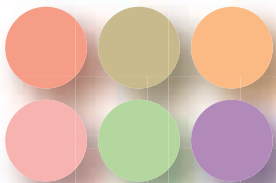
基本目標

- ふるさとを愛し、自己実現を目指す心豊かな人をつくる
- 学びあい、生かしかう中で成長し続ける地域をつくる
- 自立し共生する社会で、一人一人が輝ける未来をつくる

上越市教育委員会

1

プランの概要



■教育プラン策定の目的

複雑化、加速化した時代の変化に対応し、未来を志向する教育の姿を示します。また、多様な地域性に富む上越市の良さを生かした教育のあり方を示します。

■施策・事業推進の基本的な方針

幼児教育や小・中学校教育を中心とした学校教育と公民館講座やスポーツ活動などの社会教育とを含み、幼児から高齢者までの教育委員会における生涯学習体系を施策の範囲とします。

上越市第5次総合計画を上位プランに、上越市生涯学習推進プラン、上越市スポーツ振興プラン、次世代育成支援のための上越市行動計画、上越市人にやさしいまちづくり推進計画、健康シティ上越・2010計画、上越市男女共同参画基本計画など各課部局で策定する諸計画と連携を図っていきます。

■プランの構成と計画期間

本プランは、基本構想、基本計画、実施計画で構成します。基本構想と基本計画は平成18年度に策定し、計画期間は平成19年度から平成28年度までの10年間とします。基本計画は3年ごとに見直しをします。緊急性、重要性の高い課題については平成19年度に着手し、平成20年度からの実施計画に連結します。

年度	H18	H19	H20	H21	~H28
基本構想	策定				→
基本計画	策定 重点施策	実施			→
実施計画		策定	実施		→ 評価 策定

●上越市の教育の現状と課題

「子どもたちが変わった」「親が変わった」「社会が変わった」……。教育プランを作成するため市内の小・中学校の先生が参加するワークショップを行いました。そこで出された意見です。じっとしていられない子やがまんできない子が、どの学校にも、どのクラスにもいて先生たちが困っています。「先生に指導力がないからだ」とか「親がしつけられないのだ」とか単純に決め付けられない深い問題がそこに潜んでいます。子どもたちの生活の変化や子どもたちを取り巻く社会の変化に原因があるのではと多くの先生が感じています。

また、有識者や市民代表による検討委員会で議論を重ねてきました。そこでも指摘されたのが、社会生活の大きな変化により、家庭が家庭としての機能を失いつつある状況です。「朝ご飯を食べてこない子ども」「あいさつをきちんとできない子ども」「自己表現がうまくできない子ども」など、増加傾向にあります。社会からの大きなストレスの中で、親が親としての育ちをうまくできないていることが浮かび上がってきます。

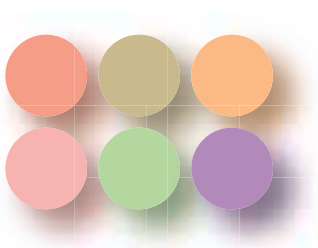
一方、広域になつたことで、海や山や自然に恵まれた上越市を体験活動の場としてとらえられるようになりました。歴史資産や文化資産も広域な上越市の中でとらえることで学習の場と多様性が増しました。

このようなさまざまな教育の現状と課題を学校教育分野、社会教育分野、教育行政分野で検討し、「基本構想」を定めました。





基本構想	3つの目標
基本計画	15の基本計画
実施計画	当面する課題に対する5つの重点施策



教育の方向

●学校教育の方向

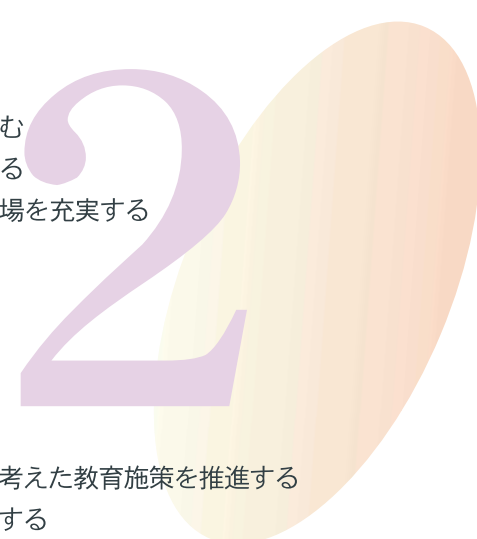
- ・学ぶ意欲を高め、基礎・基本の定着を確実にし、確かな学力を身に付けさせる
- ・感性に富み、誇りや自信がもてるような心の豊かさを育てる
- ・たくましさや生き抜く力をもった健やかな体を育てる
- ・今日的な教育課題の解決を図り、変化する社会で求められる能力を育てる
- ・特別な支援を必要とする子どもたちのニーズに合わせた指導を行う
- ・ふるさとを愛し、上越で育ったことを誇りにする子どもに育てる
- ・人権意識をもち、自立し共生できる人間を育てる

●社会教育の方向

- ・家庭を大切にし、社会全体で青少年を育む
- ・学ぶことの基礎を育み、学習環境を整える
- ・学びの場を広げ、学んだことを生かせる場を充実する
- ・文化遺産に触れ合い、郷土愛を育む
- ・スポーツを楽しみ、技を磨く

●教育行政の方向

- ・安全で安心できる環境づくりを推進する
- ・特色を生かしつつ、全市的なバランスを考えた教育施策を推進する
- ・長期的な方向を見据えた教育行政を推進する
- ・多様な学習課題を解決する各種講座を提供する
- ・学校、地域、家庭、各団体がスクラムを組む体制づくりをする
- ・地域に開かれた特色ある学校づくりを推進する
- ・力量ある教職員等の育成を目指す研修体制を確立する



基本計画

「教育の方向」を受け、今後推進していく基本計画を定めました。基本計画は平成19年度から10年間を見通した上越市の教育施策となります。また、15の基本計画を推進するための具体的な基本施策を基本計画ごとに定めました。

3

社会の変革の中で教育は大きく変わろうとしています。地域が地域としての最適な状況を作り出すことが求められています。上越市では「上越市総合教育プラン」を策定し上越市にふさわしい教育環境の整備を目指しています。学校教育では、「開かれた学校教育」をこれまで以上に推し進め、「確かな学力の向上」と「特色ある教育活動」に新しい一歩を踏み出すとしています。社会的な教育では、第一線で活躍していた団塊の世代の方々が、次のステップとして生涯学習の場に登場しつつあります。体験的な学びの場を伸介した学校教育と社会教育との連携も推し進められています。子どもだけでなく社会全体の国語力向上の必要性が言われている中、身近な場で読書環境を作っていくという取組も始まっています。安全安心な教育環境の整備、主体的な教育活動の取組、家庭の教育力の向上、地域の教育力の向上なども、家庭、地域、市民や企業、NPO、学校、行政が力を合わせ、それぞれの主体的な活動として取り組んでいくことが重要になります。それぞれの立場や役割で真剣に教育を考え、取り組んでいくことが重要になります。



<p>1 学ぶ意欲と確かな学力の定着を促す学習指導の改善</p>	<p>2 思いやりに満ちた豊かな心の育成のための活動の推進</p>	<p>3 健やかな身体を育成する環境の整備</p>	<p>4 夢・希望・未来につなぐ教育の推進</p>	<p>5 自立と共生を目指す特別支援教育の推進</p>
<p>6 互いに認めあい共に生きる社会を目指す教育の推進</p>	<p>7 家庭と子どもの育成環境の整備</p>	<p>8 生きがいもてる生涯学習環境の整備</p>	<p>9 公民館を中心とした社会教育の推進</p>	<p>10 豊かな地域文化振興への支援</p>
<p>11 地域が主体のスポーツ・レクリエーション活動の推進</p>	<p>12 安全で安心な教育環境の整備</p>	<p>13 バランスのとれた教育行政の推進</p>	<p>14 特色ある学校教育の支援</p>	<p>15 教育関係職員力量形成のための支援体制の整備</p>

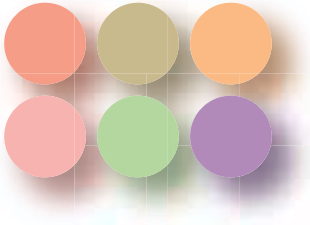
重点施策

平成19年度からの重点として取り組んでいこうと考えている施策です。実効性のある計画として具体化していくためには、行政が示した施策を、家庭、地域、市民や企業、NPO、学校でスクラムを組み、取り組んでいく必要があります。

<p>1 開かれた学校教育に向けて</p>	<p>2 上越カリキュラムの策定</p>	<p>3 家庭の教育力の向上のための支援体制の整備</p>
<p>4 身近に読書のある生活環境の整備</p>	<p>5 地域の教育力の向上のための支援体制の整備</p>	<p>4</p>



イラスト/山本みゆき



プランの進め方

●プランの広報

上越市総合教育プランは、家庭、地域、NPO、市民や企業、学校、行政とスクラムを組んで取り組んでいくことを前提とし策定しています。プランを実効性のあるものにしていくためには、プランの内容について、できるだけ多くの方からの理解と賛同を得ていく必要があります。そのため、プランの内容について市の広報紙やホームページなどを利用し広報に力を入れていきます。

●プランの実行と進捗管理

上越市総合教育プランは、時代や社会の変化に応じて様々な教育施策や教育計画が次々と出される中で、それらの施策や計画を有機的に結び付けていく役割をもつものです。そのためには、計画 (Plan)、実行 (Do)、評価 (Check)、改善 (Act)のサイクル(PDCAサイクル)でプランを推進していく必要があります。

基本計画策定後、初年度の重点施策に基づき、3年間の実施計画を作成します。担当部署毎に実施計画の進捗状況をチェックし、それを基に上越市教育委員会が毎年1回、基本計画の進捗を管理し実施計画を見直します。また、基本計画の見直しは3年ごととし、これらの取組状況については、随時ホームページで公表し、ご意見を踏まえ改善に努めます。

教育用語の解説

- 【キャリア教育】 ● 児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を教育すること。
- 【ICT教育】 ● 情報教育。従来、ITが同義で使われていたが、国際的にはCommunicationをふくめたICTが一般的。
- 【食育】 ● 「知育」「徳育」「体育」に加えて必要だとされている教育。食育によって育てる能力は「食べ物を選択する能力」「料理する能力」「味がわかる能力」「食べ物の育ちを感じる能力」「元気な体のわかる能力」である。
- 【カリキュラム】 ● 学校の教育課程と同義に扱われることが多い。上越カリキュラムプランでは、「子どもがカリキュラムを生成する」という考えに立ってカリキュラムの開発を目指していく。
- 【発達障害】
(軽度発達障害) ● 知的障害を伴わない発達の障害。学習障害(LD)や注意欠陥/多動性障害(AD/HD)、高機能自閉症等。早い時期の支援が適応を早く進める。
- 【総合・インクルージョン】 ● 統合教育は健常者と障害者が同じ場所で教育を受けること。インクルージョンは、健常者と障害者の区別をとりはらった「万人のための教育」。
- 【小1プロブレム】 ● 小学校に入学したばかりの児童が落ち着いて教師の話聞けず、友達と騒いだり教室を歩き回ったりするなどして授業が成立しない問題。
- 【中1ギャップ】 ● 中学校入学に伴う学習環境や生活環境の変化によって生ずる様々な問題。中学1年生になったとたん、いじめや不登校などが急増する現象。

ご意見やご要望をお寄せください。

上越市教育委員会 〒942-8563 上越市大字下門前593
TEL025-545-9243/FAX025-545-9272